

議事抄録

件名	加賀市定住促進協議会 第1回 加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会
日時	平成28年10月4日(火) 16:00~17:30
会場	加賀市役所 別館3階 302会議室
出席者	(委員) 松下座長、原委員、馬場先委員、宇野委員、三本松委員、野沢委員、 藏田オブザーバー (事務局) 河合副市長、代工市民生活部長、宮地市民生活部理事、荒谷山中支 所長、山村人口減少対策室長、平井健康福祉部次長、北七長寿課長 大田地域医療推進室長、一般社団法人生涯活躍のまち推進協議会 堀田氏
資料	○ 第1回加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会 次第 ○ " 座席表 ○ " 委員名簿 ○ 【資料1】加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会設置要綱(案) ○ 【資料2】加賀市の「人口減少対策」について ○ 【資料3】「生涯活躍のまち」動向について
会議内容	
開会挨拶 (河合副市 長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 検討部会立ち上げの経緯とねらいを説明。</li> <li>● 加賀市の人口は1985年の約8万人をピークに減少の一途。</li> <li>● 平成52年(2040年) 約5万人弱まで人口が減少するものと推計。</li> <li>● 平成27年度に市民生活部の中に人口減少対策室を設置、平成52年の人口で6万人以上を維持することを目標に加賀市の人口ビジョン、加賀市のまち・ひと・しごと総合戦略を策定した。</li> <li>● 計画の中で「仕事を作り安定した雇用を創出する」「新しい人の流れをつくる」「若い世代の結婚出産子育ての希望をかなえる」「時代に見合った地域をつくり安心な暮らしを支える」という4つの項目を示している。</li> <li>● 本年7月、加賀市への新しい人の流れをつくること、移住や定住の推進をはかることを目的に官民連携の協議会(定住促進協議会)を立ち上げた。</li> <li>● さらに新たな取り組みとして、加賀市への新しい人の流れを作るための具体的な3つのプロジェクトを作った。そのうちの生涯活躍のまちプロジェクトをここでご協議いただきたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住を進めながら、地元住民とも融和を進める多世代共生型のコミュニティを検討していきたい。</li> <li>● 移住者を増やせばよいのではなく、地元の住民の方々がこの土地に住み続けたいと思えること、そのことを通じて加賀市に訪れてみたいという人が増えること、結果的に人口維持につながることに繋がっていきたいと考えている。</li> </ul>
出席者紹介	(名簿に添って委員、事務局を紹介)
資料確認	(配布資料の確認)
設置要領の説明 (山村室長)	(山村室長より、【資料1】の内容に添って設置要綱案を説明)
座長の選任	(委員の互選提案がなかったため、事務局案として加賀市医師会会長松下委員に推薦。全委員の承認により松下委員を座長として選任)
座長挨拶 (松下座長)	<p>(自己紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 昭和51年の3月に金沢大学を卒業</li> <li>● 昭和63年10月、旧国立山中病院内科に勤務</li> <li>● 平成14年4月に加賀市の山代温泉に内科クリニックを開院</li> <li>● 山中温泉の県民体育館の向かいに自宅。人生の半分以上は旧山中町で過ごした。</li> </ul>
加賀市の人口減少対策説明 (山村室長)	<p>(人口動態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 加賀市の人口は1985年の国勢調査、80,877人をピークに減少が続いている。</li> <li>● 近年、子育て対策等の対応を実施しているが人口の減少は続いており、本年2月2日発表の平成27年の国勢調査速報発表では67,235人と県内最大の4,652人の減少。</li> <li>● 速報集計結果によると、金沢市を中心に20キロ圏内にある3市3町で増加しているものの、本市を含めた他市町では減少。その中でも本市の減少は他の地域と比べても非常に高い数値。</li> <li>● 年齢階級別の移動状況では、男性は25歳から29歳で最も転出超過が大きく、転出先内訳は県内が最も多い。次いで20歳から24歳の転出が多く、ほとんどが3大都市圏への移動。35歳から39歳、45歳から49歳では県外からの転入超過がみられる。</li> <li>● 女性については、20歳から24歳の転出超過が最も多く、3大都市圏への転出が集中。男性のように転入超過の階層は見られない。</li> <li>● 転入出の地域別状況では、福井県の坂井市、福井市から若干の転入超過だが、小松市、金沢市への転出が超過。20代30代の若</li> </ul>

年層でも小松市、金沢市の順に超過。

(加賀市民向けアンケート調査)

- 将来展望の参考とするため、無作為に抽出した加賀市在住 1,000 人にアンケートを実施。結果は、加賀市での生活に満足していないのは全体の 4 割、理由としては交通や買い物等の便の悪さ、安定した職や収入に恵まれないことを挙げる人が多い。
- 生活に満足をしていない理由は、20 代では雇用、30 代では子育てや教育環境が大きな割合を占める。

(基本目標)

- 昨年 10 月に本市が重点的に取り組むべき施策を示すものとして加賀市まち・ひと・しごと総合戦略を策定。人口目標を達成するために 4 つの柱からなる基本目標を設定。
- 雇用の確保と安心して暮らせる環境づくりに加え、転出を減らし転入を増やせるような新しい人の流れを作っていくと同時に、若い世代の結婚出産子育ての希望を叶えていくことで出生率を向上させていくことを基本目標として設定。
- 具体的な数値目標として、加賀市への新しいひとの流れをつくることについて、平成 26 年度 555 人であった転出超過数を平成 27 年から 31 年度までの累計で 760 人とどめるという目標を設定。
- 目標達成に向けた具体的な取り組みとして、昨年 6 月より移住住宅取得助成制度を創設、また、空き家バンク制度を創設。

(加賀市定住促進協議会の取り組み)

- 本年 7 月には新しい取り組みとして移住定住サポート体制の構築を目的に産官学の連携の取り組みとして、加賀市定住促進協議会を設立。
- 定住促進協議会の具体的な事業として、雇用のミスマッチの解消支援を実施。
- 加賀市の平均求人倍率は全国平均を上回っているものの、観光、医療や介護といった分野では人材不足。製造業でも応募数が少なく人材確保に苦労している。
- 市内事業者の仕事の魅力や将来展望、社会的存在意義について洗い出しを行うヒアリング調査を実施。正社員化など事業者自

らの魅力向上等の人材確保に向けた体制の整備状況についてもリサーチを行い、改善策を取りまとめ、そうした取り組みを他事業者にも働きかけていく。

- 本市への移住希望者の希望に沿った仕事、住居の紹介や現地案内を含めた移住相談にワンストップで対応する移住コンシェルジュを設置。
- 移住のイメージをつかんでもらうことを目的にお試し居住体験施設を整備。
- 移住希望者への情報発信強化として専用ポータルサイトやフェイスブックによる情報発信、大都市圏での移住イベント等に出展。
- 8月には東京大学や慶應義塾大学といった首都圏等の大学の13名の学生に参加してもらい、加賀市の未来について考えるワークショップを実施。このワークショップは本年度中にあと2回実施予定。(11月と3月)

(地方創生の新たな取り組み)

- さらなる取り組みとして、地方創生関連の交付金を活用し、加賀市への新しい人の流れを作るリーディングプロジェクトとして新たに「ローカルベンチャー」「若者等就労支援」「生涯活躍のまち」の3つのプロジェクトを計画。
- ローカルベンチャー育成プロジェクトは、加賀市の地域資源を活用した起業に意欲のある都市部の若者を対象に、地域おこし協力隊の制度を活用し3年以内の企業を支援するもの。
- 若者等就労支援プロジェクトは、都市部の若者等の就労支援を実施するNPO等と連携し、若者等の就労体験の受け入れを行う。また、観光・介護をはじめとする受け入れ企業の確保を含めた就労支援プロジェクトを策定し、市内の若者等を含めた就労困難者の支援につなげていく。
- 生涯活躍のまちプロジェクトは、都市部からの移住を希望する元気な中高年を対象に地域の住民の方々と融和をする形での新しい多世代交流型の地域づくりを目指すもの。
- 「生涯活躍のまち」プロジェクトは、他2つのプロジェクトと関連させながら、元気な中高年だけでなく、子育て世代を中心とした方々の移住も促進していきたいと考えている。

	<p>(スケジュール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本部会の皆様には加賀市版「生涯活躍のまち」として、加賀市全体の構想の検討を行っていただくとともに、具体的な候補地のひとつとして山中医療センター跡地を活用した基本計画策定につきましてもご議論をお願いし、今年度中にとりまとめをお願いしたい。</li> <li>● また、「生涯活躍のまち」の理解を深めるためのシンポジウムについても年度内に開催したいと考えている。</li> </ul> <p>(山中温泉医療センター跡地の利活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本年4月のぬくもり診療所開所に至るまでに実施した地元説明会や市議会にてイメージを既に示している。</li> <li>● 将来構想の内容として、診療所やサービス付き高齢者向け住宅を含めた医療、福祉、住まいなどの公的な機能を担う、新たな多世代交流の地域交流空間の整備を検討する。</li> </ul>
<p>質疑</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ただいま説明のありました加賀市の人口減少対策について、委員の皆様からご意見やご質問はございませんでしょうか。</li> </ul> <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 加賀市の人口構成は？</li> </ul> <p>(山村室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 後程資料をお示しします。</li> </ul>
<p>生涯活躍のまちの動向に係る説明 (堀田氏)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資料の①～⑥は創生本部の有識者会議の最終報告概要。2年前の12月くらいにCCRCという名前が「まち・ひと・しごと創生本部」で取り上げられだし、約1年かけて有識者会議で構想がまとめられた。</li> <li>● 人口減少に関する課題に立ち向かうため、中高年層の都市部から地方への人の流れを作ること目指し、アメリカのCCRCを参考に、日本に合った日本版CCRCを検討。生涯活躍のまちとして整理された。</li> </ul> <p>(基本方向) ※資料3_①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中高年の移住政策ではあるが、安心して生き甲斐を持ち続けられるような地域をつくる。移住ありきではなく地域を作ることによって人の流れを作っていくという考え方。</li> </ul>

(手引きの説明) ※資料 3\_②

- 抑えるべき点として、共通必須項目と選択項目(地域性)が挙げられているが、地域づくりである以上、地域性という部分が議論の上で大事になると考えている。

(国・自治体・運営主体の役割分担) ※資料 3\_③

- 国は構想取りまとめや必要な政策支援。自治体は構想、基本計画、具体化に向けた事業計画を作り、運営法人を定める。運営法人は事業運営を担う。

(プロセス) ※資料 3\_④

- 資料中、検討組織というのが本部会にあたる。

(運営イメージ) ※資料 3\_⑤

- 移住をベースに記載されているが、運営推進機能として、コーディネーターの配置、地域交流拠点の設置が求められている。
- 地域交流拠点をどこにするのか、どのような機能を持たせるのかといった部分が大切。旧山中温泉医療センター跡地もひとつ。

(政府の取組み) ※資料 3\_⑥～⑩

- 構想や手引きの作成。配布。支援チームを立ち上げ、省庁横断で先行した自治体の取組みを聞きながら支援内容を検討しているところ。必要があれば法制度整備も行いながら進める。
- 「生涯活躍のまち」づくりに関心を持っている自治体は全国で約260。すでに多くの自治体が交付金を活用して事業化に向けた取組みを進めている。

(「生涯活躍のまち」構成要素例) ※資料 3\_⑪

- 資料は政府ではなく、「生涯活躍のまち」推進協議会として整理中のもの。
- 「生涯活躍のまち」づくりとして押さえるべき構成要素として、交流(地域活性化)、住まい、ケア、活躍、移住の内容を組み立てていくことが重要だと考えている。

(参考情報) ※資料 3\_⑫～⑳

- 「生涯活躍のまち」の完成された事例はまだないが、モデルとされる事例は、金沢のシェア金沢をはじめ、幾つか政府に取り上げ

	<p>られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ⑭以降は政府の有識者会議等で「活躍」や「ケア」を考える上での参考データとして示された資料。</li> </ul>
質疑	<p>(山村室長より人口構成について補足説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口構成としては、生産年齢人口およそ4万人、年少人口およそ1万人、高齢人口およそ2万人。</li> <li>● 高齢人口が増え続けており、年少人口は昭和60年から、生産年齢人口は平成7年から減少に転じている。</li> <li>● 平成7年から高齢人口が年少人口を上回り、平成52年に向けて生産年齢人口と高齢人口の差が急激に縮まる見込み。</li> <li>● H37年以降については高齢人口も減少に転じ、人口減少が進んでいく見通し。</li> </ul> <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化率は？</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 約31～32パーセント。</li> </ul> <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産年齢、高齢人口をどう見ていくか。人口構成がないのでよく分からないが、ここを考えていくことが大切ではないか。</li> </ul> <p>(河合副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口構造は次回資料で示す。</li> <li>● 平成38年が75歳以上人口がピーク。このころには高齢化率も36%ほどに達する見込み。</li> </ul>
意見交換	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 忌憚のないご意見をお願いします。</li> </ul> <p>(馬場先委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 意見と言っても何を言っているのか分かりづらい。</li> <li>● 次回には構想試案が出されるということで、どういう風なものを盛り込んでいく予定であるのかが分からないと意見を申し上げるのが難しい。</li> </ul> <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住対策だが、全国、若者に住宅提供して…というのは全国各地いろいろやっている。加賀市らしい取り組みが含まれないと難しいのではないか。</li> <li>● 例えば、漁業者の状況は？減っていないですか？山中漆器の工芸</li> </ul>

の人口は？まちのなかでさびれていく職業は？こうした生業をどう示していくのか。こういう就業先について、若者がこれだったら私でもと思うような示し方が移住につながるのでは。

- 高齢期は人生のボーナス。楽しく過ごそうよといったまちづくりも重要では。
- 加賀市には温泉という絶好の資源がある。温泉のまち加賀市で人生のボーナス期。これをどうアピールして日本版 CGRC のまちづくり構想を組み立てていくのか。お互いに助け合い、人生を楽しんでいく。加賀市の資源をうまくアピールしてほしい。

(山村室長)

- 職業が見える化するというご提案について、雇用のミスマッチの解消支援を行っている。各事業者にインタビューを行い、定住促進協議会のホームページで随時アップしていく予定。ハローワークにあるような情報だけでなく、移住された方がどのように仕事しているのかなど、中身の見える情報を発信していく。
- また、ローカルベンチャー事業では、地域資源を活用した若者の起業ということで、意欲のある方々を加賀市に呼び込みたい。そういう人たちが活躍することで人が人を呼ぶ取り組みにしていきたい。
- まだ始めたばかりで具体的なものを示せないが、温泉を活用した案など、次回の方向性の中で示していきたい。

(宇野委員)

- 創業支援がキーワードではないか。
- 若者だけでなく女性や技術を持ったシニアも含め、起業支援ができれば良いのでは。

(馬場先委員)

- 一般的な話だが、一通り話を聞いたうえでの考え方、話の進め方として、上位計画で押さえているような。加賀の自然、温泉の環境、歴史、伝統モノづくりのようなキーワードをきちんと押さえることが大切。
- そうした特徴を押さえたうえで、地域独自の独自性をアピールして外からの人を呼び寄せる。新たなものというよりも基本的な加賀の特徴を発展させたもの。その魅力で呼び寄せる可能性は大きい。
- 例えば、小松市の滝ヶ原では、生産物を東京に持っていくルートを開発、地元と東京の交流を深めて発展してきた。また、今朝の



新聞では、金沢の街に惚れ込んで芸能人の女性が店を開設したとあった。こうした事例が割とたくさんある。

- 自治体で魅力を育ててうまく発信することによって、分かってくれる人が集まってくる。
- 他方、まずは地元の人たちが大切であって、地域の人が住みづらくて出ていくようでは意味がない。地域の人も住んでいたいという地域がほかの人たちも住みたいとなっていくのが基本原則。
- その地域の中でよりよく住みやすい、活躍できる環境をどうつくっていくのかを第一に考えていきたい。最初から移住ありきではすぐにダメになってしまいかねない。

(河合副市長)

- 加賀市らしいストーリーが必要になるが、それはすでにできている。その発信をしていきたい。
- 移住が先なのか、住んでいる人が先なのかという議論もあるが、よそ者に指摘されることですごいことだと気付くということもある。その相乗効果が重要。
- 移住を至上命題のように進めていくということではないが、今住んでいる人の住みやすさをどうしていくのかということと合わせ、加賀市のストーリーを発信して共有してくれる人を呼び込んでいく。

(三本松委員)

- 加賀市の印象として、ありすぎるくらいの資源があり、ありすぎて逆にまとめられない。
- ひとつしかなければ集中して進められるが、ありすぎて全体をどうやってまとめていけば良いのかが難しいのではないかと。ありすぎるゆえの悩み。
- それをどうやって一つにするのかが、他の市町村と違って実は大変なのではないかと思う。
- 創業でいえば、加賀市には金融機関の創業支援ネットワークがある。4月からは ILAC (いしかわ就職・定住総合サポートセンター) と私どもで連携し、個別の企業の人材要請に対して人材をご紹介できるような仕組みもある。
- パーツはあるのでそれを全体につなげていくことが大事。

(松下座長)

- 来られる人が生き甲斐をもてるようなところが一番基本ではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人から世話をされるのではなく、人の世話をするとか、人の役に立つ。そういう視点を入れていく。住んでいる人も大事だが、中高年になってリタイアした人に生き甲斐をもってやってもらえるようなことを考えていくのは大事。</li> </ul> <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「生涯活躍のまち」の動向についての資料3のところでは輪島市の例が出ている。金沢大学 COC+の連携がまさに我々(金沢大学)がやっているところ。</li> <li>● 輪島塗はかつて140億の売上であったものが、現在は40億。100億の売り上げを失った輪島の人材は金沢への流出につながり、過疎化もすすんでいる。</li> <li>● 輪島 KABULET で高齢者、障害者、若者等、世代間を超えてお互いが支え合っていくまちづくりが進められ、ここに、金沢大学だけでなく、石川県内8つの大学と一緒にインターンを入れていく。</li> <li>● 実際に働いてみて地域の面白さ、漁業や漆器の素晴らしさが分かる。そういう若者たちの職業体験、ここに全面的に協力していく。</li> <li>● こういうことも、輪島と産業構造がよく似ている加賀市で取り組んで加賀市独自のストーリーを作っていくと面白い。</li> </ul>
<p>閉会挨拶 (代工部長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加賀市では、チャレンジできる町、プラス加賀を掲げている。</li> <li>● 加えるという字が2つもある加賀市という名前にプラス加賀という意味を持たせている。</li> <li>● ローカルベンチャー、若者等就労支援、「生涯活躍のまち」、この3つを進めていくうえで、この部会(「生涯活躍のまち」)が一番難しいとずっと思っていた。</li> <li>● テーマもまだ漠然としたなかでのスタートですが、知恵をおかりしてプロジェクトを進めていきたい。</li> </ul> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>
<p>事務連絡</p>	<p>次回委員会は11月の上旬を予定。</p>

以上